

## 大原社会問題研究所五十年史

## III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

## 『資料室報』の発行その他

本年度の研究調査成果としては、雑誌第四巻第一号の諸論文の外、太田敏兄囑託による農民組合調査がある。この報告はアルヒーフ第二号『農民組合による小作農家の現状調査』（一九二六年一月一〇日）として刊行された。翻訳はパンフレット第二号森戸、久留間訳『剰余価値学説史』第一巻第五冊がある。また数年来の仕事たるウェブ『産業民主制論』の翻訳は八月二四日に全部完了した。さらに研究所の概要を記した小冊子『研究所の葉』（越智氏作成）が出来上り、これは大林氏が英訳して英文パンフレットとして発行されることとなった。資料の受入れ其の他を所内外に通報する『資料室報』（不定期刊）が発行されたのはこの年の七月である。これは一九三四年第三三号まで発行された。本年度より資料室員は全国各地に出張し、米騒動に関する記録を写し、また各種の資料を集める仕事を始めた。これはのち、細川氏の研究により一部は雑誌に発表された。

一九二八年 昭和三年 一九二八年は大原研究所の歴史にとって、きわめて重大な意義をもつ年となった。それは、この年以後研究所の東京移転までの約九年間、高野所長以下研究所側と大原氏との間に大きな懸案として、その解決に多大な努力を費やさしめた所謂「存廃問題」の発端となった年だからである。存廃問題は、三・一五事件すなわち日本共産党員の全国一斉検挙事件の余波として、その事件直後より始まるのであるが、その経緯を明らかにする前に、五社連盟版マルクス・エンゲルス全集発行計画と研究所との関係について記しておきたい。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

---

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---